

GAP部門

農林水産大臣賞

取組の紹介

長野八ヶ岳農業協同組合

所在地	長野県南佐久郡南牧村大字野辺山106番地1
認証	GLOBALG.A.P.
応募区分	団体の部
面積	267ha(認証面積)
構成員	41名
栽培品目	結球レタス、非結球レタス(サニーレタス、グリーンリーフ)

GAPに取り組んだきっかけ

- 持続可能な産地を目指す上では全ての生産者がGAPに取り組むことが必要と考え、長野県GAPの取組推進を図る中、2020東京オリパラへの供給による産地のアピール等に繋がる等の理由から一部構成員でJGAP認証を取得。その後、大手取引先への供給に対し必須条件となったGLOBALG.A.P.認証に移行。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 内部監査員によって検査内容に差が出ないよう、事前に確認事項等について目合わせを行うとともに、GAPに関わる職員の増加を図り、一部の職員に負担がかからないようJA全体でサポートを行う体制を確立。

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

- JAが独自で作成した「GLOBALG.A.P.日誌」とGLOBALG.A.P.用にカスタマイズされた営農支援プラットフォーム『あい作』により、各構成員が自ら営農記録を行う仕組みを構築。記録・確認の効率化により、構成員・事務局ともに事務作業の負担が軽減。
- GISシステムの導入によりほ場管理履歴をデータで一元管理することでほ場確認・情報共有等が簡素化。

経営の改善に向けた取組とその効果

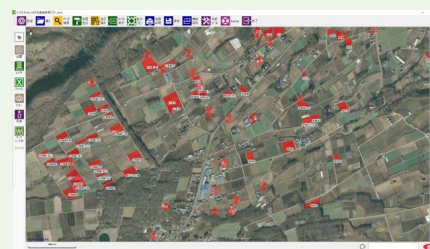
- 構成員の意向確認を行い慎重にGLOBALG.A.P.へ移行するなど、JAと生産者の着実な信頼関係の構築により、構成員数は2年間で29名(R4)→41名(R6)と1.4倍に増加。また、認証品の安定出荷・品質面が評価され、取引先からの生産者MVPを受賞するとともに、販路を拡大し合計の取引数量5,319t(R5)→6,812t(R6)と28%増加。

地域への波及効果

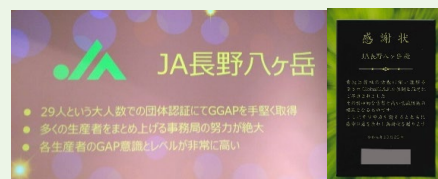
- 「長野県GAPフォーラム」において、県内の農業者、市町村、JA担当者等に向け取組事例を発表。構成員自ら記録を行う仕組みづくりや日誌の作成、JAとしての体制づくりについて紹介。
- コスト削減の為、地域内他団体と内部監査を相互で実施するとともに、日誌を提供。お互い課題を共有しながら「効率化」と「コスト削減」を両立できないか模索。



「あい作」による記録方法(農業散布)



GISシステムの画面の様子



取引先からの表彰



長野県GAPフォーラムでの事例報告の様子

GAP部門

農産局長賞

取組の紹介

南郷トマト生産組合

所在地	福島県南会津郡南会津町宮床宇川久保22-1
認証	JGAP
応募区分	団体の部
面積	30.1ha
構成員	102戸
栽培品目	トマト

GAPに取り組んだきっかけ

- トマトの生産から出荷までのルールを統一し、産地全体で生産工程を管理する体制を構築するとともに、100年続く産地を目指すために産地生産基盤の強化を図ることを目的に、令和元年からJGAP団体認証への取組を開始。
- 令和元年に31農場が認証を取得して以降、段階的に認証農場数を増やし、令和6年8月に組合員全戸での認証取得を達成。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 生産者を65歳以下、新規就農者及びその他の3つに分け、生産組合役員と併せて65歳以下の生産者に対し、先行して認証取得を推進。先行して取り組んだ生産者は、新たに認証取得を目指す生産者に対して助言を行うとともに労働環境整備について支援。
- 化学農薬による土壌消毒に頼らない土壌病害の対策として、抵抗性台木の使用や転炉スラグによる対策を実施した結果、土壌病害の1つである青枯病の発生が減少。
- 労働安全に関するリスク評価は年1回各農場で実施。リスク評価の中で他の生産者にも共通すると思われるリスクがあった場合には、内部監査や研修会等において他の生産者にも共有することで、効率的に生産組合全体でリスクに対する意識改善を図る。



新規取得者を対象とした研修会の様子



野鳥の侵入対策を施した南郷トマト選果場

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

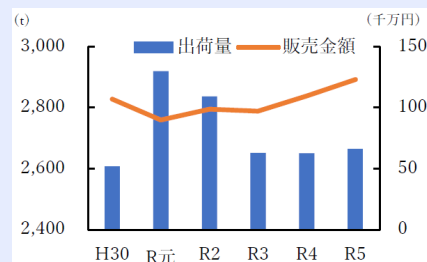
- 効果的な利用による化学農薬の使用回数削減を図り、生産者の約40%で農薬費が削減。

経営の改善に向けた取組とその効果

- 団体の方針・目的を定めたことで、生産組合の目指すシーズンを通じた安定出荷の重要性が全生産者に周知されている。それにより生産者の意識が向上し、栽培技術に係る新たな講習会の開催や、新品種の導入が進んだ結果、猛暑による厳しい生産環境が続くここ数年の間でも安定した高単収を維持。
- JGAP団体認証を取得したことにより、経営内容の見える化が進み、就農後も安定した出荷が見込め、経営の早期安定が可能であることを就農希望者に対してアピールすることが可能に。新規就農者の確保に役立っている。

波及効果

- GAPの認知度向上を目的に福島県が開催した「ふくしま。GAPフェア」において、GAP認証農産物として南郷トマトを提供。



出荷量と販売額の推移



南郷トマトを使用した料理
(ふくしま。GAPフェア)

GAP部門

農産局長賞

取組の紹介

株式会社国太郎

所在地	群馬県伊勢崎市山王町613番地2
認証	JGAP
応募区分	個別経営の部
面積	4.7ha
構成員	45名
栽培品目	こまつな

GAPに取り組んだきっかけ

- H24年9月の台風、H26年2月の雪害と自然災害に見舞われたことで、ほ場や施設のリスク管理の重要性を痛感。H29年度全国優良経営体表彰の受賞時、優良経営体の多くがGAP認証を取得していることを知り、今後の農業経営においてGAPは必須になると思い、準備を開始。

生産工程管理の改善に向けた取組

- R5から脱炭素型農業の試みとしてバイオ炭施用による炭素貯留に取り組み、環境負荷低減、コスト削減を実現。R5年度の実績ではCO₂排出量を480kg削減。
- 従業員からの提案による作業場改善により、従業員の主体性と協調性を醸成。「従業員目線」の提案・合意の形成を経て、従業員同士の連帯感を創出。
- 栽培から労務までを一括して管理できるオリジナルソフトを会計事務所と共同で作成。自社の作業体系に合わせた入力フォームを作成し、栽培の記録、肥料・農薬の使用履歴、在庫管理、収穫量、雇用管理を一括して実施。



従業員による作業場改善
(疲れにくい高さにした自作の調製作業台
及びはめ込み式の雨戸)



国太郎オリジナルソフト 入力フォーム

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

- 同一ハウスで収穫から次作の播種までを一日で完結させる効率的な作業体系「国太郎農法」により、ハウス利用年間9回転(地域慣行栽培では年間6~7回転)を可能とし、限られた施設を有効活用。

経営の改善に向けた取組とその効果

- 年齢による偏見を持たない「脱エイジズム」実現のため、作業工程の分業化、作業内容の単純化及びマニュアル化を行う。従業員は20代~80代と幅広く、65歳以上が半数以上で、高齢化による労働力不足の解消と、「社会とつながりたい」という高齢者のニーズに対応。



「国太郎農法」による収穫及び除草・残渣処理

地域への波及効果

- R2から群馬県農業経営・就農支援センターの担い手支援スペシャリストとして、認証取得を希望する経営体への認証取得に必要な書類作成の支援や研修会での講演を通じてGAPを普及。

調整作業(不要な葉の除去)の流れ

工程	作業内容
(1)~(1)	手洗い、エプロン・帽子・手袋の着用
(1)~(2)	調整シート、雑巾、畝を作業
(1)~(3)	調整シートの上に収穫した小松菜を収納したコンテナを並べるように置く
(1)~(4)	自分の調整シートを調整シートの上に置く
(1)~(5)	葉の裏、葉の裏、葉の裏に付いた土や葉を取り除き調整する
(1)~(6)	取り除いた残渣は足元の残葉用コンテナに廃棄する
(1)~(7)	調整した小松菜を調整シートに並べ残葉用コンテナに並べて置く
(1)~(8)	コンテナにあるすべての小松菜が調整でき次第残葉用コンテナを上にかけ各包菜の場所へ運ぶ
(1)~(9)	足元にある残葉用コンテナの残渣を外にあるトラックに破棄する
(1)~(10)	調整された小松菜がブルーシートの上で山になった場合は全員でブルーシートごと移動させる
(2)~(1)	定時に達したら作業現場に帰る
(2)~(2)	畝をトラックに積み込む
(2)~(3)	農具の洗浄
(2)~(4)	作業場・調整台・トイレの清掃、残葉用コンテナの洗浄、各機具、畝の洗浄
(2)~(5)	手洗い・消毒

調製作業のマニュアル

GAP部門

農産局長賞

取組の紹介

有限会社山波農場

所在地	新潟県柏崎市大字水上467
認証	JGAP
応募区分	個別経営の部
面積	119.8ha
構成員	12名
栽培品目	水稻

GAPに取り組んだきっかけ

- 従来のトップダウン体制の組織運営ではなく、組織で責任を持つボトムアップ型の体制にするため、また、農業が他産業と肩を並べるためには当たり前前のことを当たり前にする会社の仕組みが必要と考えた。そんな中JGAP認証制度を知り、JGAPを活用した人材育成・組織改革を開始。H23にJGAP認証を取得し、以降継続して認証を受けている。

生産工程管理の改善に向けた取組

- 企業として最も重要と考える労働安全について、リスクアセスメントを使い、社員自身が主体的に労働安全(労働災害リスク低減)を考え、業務手法に組み込み、実行。農業管理や労働安全について掲示物での注意喚起を行う。

生産効率性の向上に向けた取組とその効果

- 作業別責任者制度を考案・実行することにより、各作業工程に社員が責任を持ち、自ら効率化を考えて計画を立てるようになる。10a当たりの水稻作業時間は18.9時間(H22)→15.3時間(R6)に19%短縮。
- 地域の農地を守るために創業した山波農場では、その設立の思いや設立後の取組に地域から多くの信頼を得た結果、現在は地域の7割の農地の集積・集約化を実現。
- ほ場整備の結果、一区画あたりの平均面積が14a(H21)→27a(R6)の1.9倍となり、作業効率を改善。

経営の改善に向けた取組とその効果

- JGAPを商品の販売などの対外的なツールではなく、会社の改善・体制強化のツールとして利用しているが、結果的に商品の品質向上にも寄与。
- 改善の結果、運営体制が整備された会社は品質の良い商品を生産できるとみなされ、香港への輸出が8t(R3)→70t(R6)となり年々増加。

地域への波及効果

- 新規就農者や若手普及指導員の研修を受け入れることで地域の若手農業者の人材育成に貢献。農業体験イベントの受け入れや年間50回以上の視察、講演に対応。

労働災害リスク低減を組み込んだ作業手順書



農薬の適正使用や作業安全に向けた掲示

山波農場が考案した作業別責任者制度



農業体験受け入れの様子